

世界史Bにおける歴史的思考力の向上を目指した主題学習

一時間的・空間的なつながりに着目し、表現する技能の形成を意図した学習形態を中心に－

千葉県立〇〇高等学校 〇〇〇〇〇(世界史)

1 はじめに

本校は、千葉県北西部の〇〇市にある普通科高校で、約90%以上の生徒が大学進学を目指しており、生徒は意欲的に授業や行事、部活動に取り組んでいる。世界史Bは、1年時に必修4単位を履修し、3年時に選択2単位を履修できる。

生徒に対しては、入学後最初の年度に世界史Bを学ぶ意義として、世界史の様々な知識を得ることは、歴史的な思考をするために欠かせないことであると話している。また、「世界史は遠い場所で起きた過去の出来事ではなく、現在の私達と必ず繋がっており、歴史的な繋がりを考えること」「歴史上の出来事を簡単に現在の見方や価値観だけで判断したり考えたりしないこと」を常に意識して、勉学に向かうように強調している。

2 主題設定の理由

これまでの自分の授業形態を振り返ると、講義形式の通史的な系統学習が中心で知識・理解に重点を置いた授業がほとんどであり、生徒を動かし考えさせる授業は少ない。授業に取り入れる試みも行っているが、それは補足的に授業の導入や話題の部分で行っているのが現状であり、生徒が活動する場面

の不足を感じている。また、主題学習「世界史への扉」は、教師からの問いかけ中心で、生徒が主体的に学習しているとは言えないと感じている。さらに、「地球社会の形成」は、生徒自身が主題を選択して追究するものだが、古代から現代まで終わらせるのが精一杯で時間がなく、決して十分な実施状況とは言えない。

次に、本校生徒の意識調査「世界史の学習に興味はありますか？」の結果から分析すると、興味がある・やや興味があると答えた者が84%である。下の**記入例1**をみると、歴史を身の回りの事や現代の問題と結びつけて因果関係を考えようとしたり、歴史の流れや変化を考えようとしたり、歴史を様々な角度からみようとする生徒も多くみられる。私がこれまで行ってきた講義形式で知識・理解中心の授業では、このような生徒の歴史的な思考を行いたいという思いに十分に答えていない。

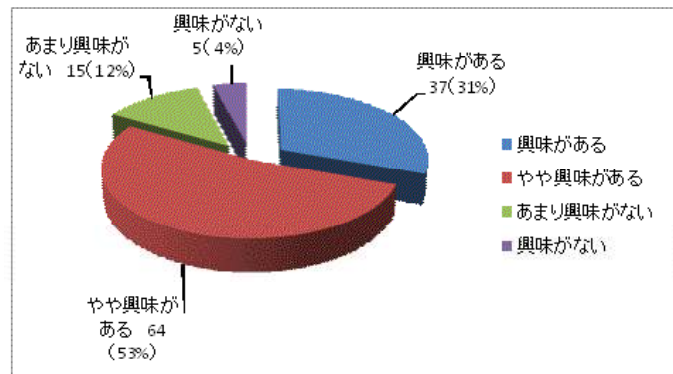
記入例1

＜興味がある・やや興味がある＞

- ・世界が現代に至るまでにどのような変化があったのかということを知ることが出来るからです。
- ・今、自分たちの生活の中にある物事のルーツを辿ることができ、想像力が働くから。
- ・いつ、どこで何が起きていたのかを色々な角度から見るのが面白いから。

一方、16%があまり興味がない・興味がないと答えている。**記入例2**をみると、暗記が苦手

あなたは、世界史の学習に興味はありますか？



(平成22年5月実施 1年生121名)

だったり、たくさん登場する人物や出来事の多さにうんざりしたり、なかには世界史や外国の事を学習する意義を全く見いだせない生徒もいる。このような世界史への苦手意識を解消し、学習意義を見いだせるような授業へと改善しなければならない。

記入例 2

＜あまり興味がない・興味がない＞

- ・人物の名前が長いとやる気が失せる。あと、その名前を覚えて何に役立つのかわからない。
- ・昔、しかも外国のことから、良い未来ができるとは思わないし、将来、世界史に関する職に就くとも思えないから。
- ・現代を生きる自分にとって、過去のことについて学ぶ必要性はないと思う。歴史を知って、何のためになるのかわからない。

また、「世界史を学習し、どのようなことを身につけたいですか？」と質問したところ、ほとんどの生徒は、世界史の知識を身につけたいと言う回答であるが、少ないながら世界史を得意とする生徒の記入例 3 をみると、自分で考えたり、相手に説明したり、広い視野で分析するような主体的な学習に対する意欲も持っていることがわかる。このような主体的な学習に対する意欲もしっかりと受けとめなければならない。

記入例 3

- ・「昔の人は、なぜこうしたのだろう？」と自分で考える力を身につけたいから。
- ・世界史の知識を知っているだけではなく、それを他人にも説明できるようになりたいから。
- ・歴史を学べば、今の情勢をよく見て行動することが出来るようになると思うから。
- ・世界史をとおして、今までよりも広い視野で色々なことを考えたいから。

今回、自分自身の授業を見直す機会をいただき、現在の私の授業に対する問題意識を確認し、また、生徒の世界史に対する意識を考えた結果から、今回の研究主題を「歴史的思考力の向上を目指す主題学習のあり方」としたのである。

3 研究の目標

先ず歴史的思考力とは、どのような力なのか考察し構造化を行い、次に歴史的思考力の育成を目指し導入された主題学習の変遷や特質、課題、学習形態について考察を行う。さらに新学習指導要領をふまえ、歴史的思考力と歴史学習の基本的技能の関係を考察する。そして、どのような工夫を行うことが、主題学習を通じて生徒の歴史的思考力を向上させることに効果があるかを実践を通して明らかにする。

4 研究の考え方

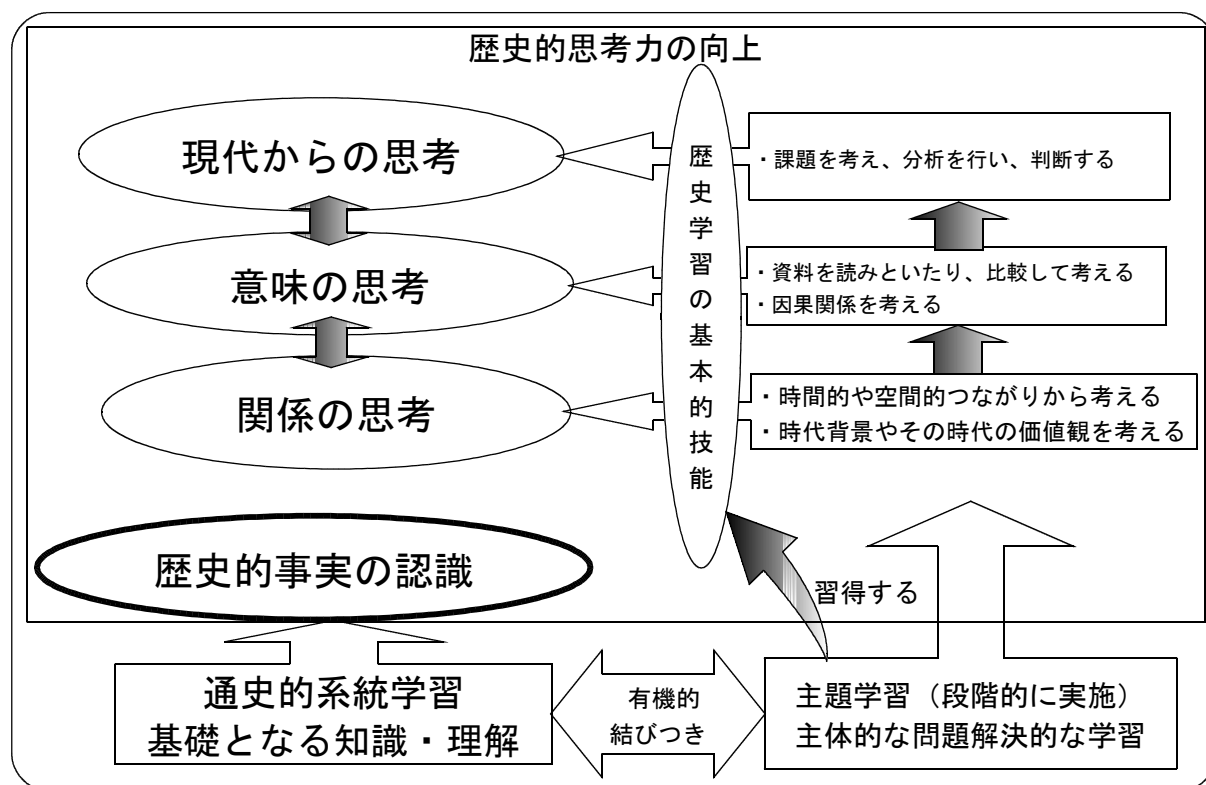
(1) 歴史的思考力

歴史的思考力とは、歴史的な見方・考え方であり、人により様々な考え方があると思う。私は、先行研究を参考にし、これまでの教職経験をふまえた上で下図のような「歴史的思考力の向上を目指した通史的系統学習と主題学習の構造図」にまとめてみた。歴史的思考力は、基礎となる歴史的事実の認識（知識・理解）を土台に、3つに分類できる「現代からの思考」・「意味の思考」・「関係の思考」を総合的に行うものと考えた。

- ①「現代からの思考」＝現代の課題を考え、歴史的な分析を行い、自分の判断をすること。
- ②「意味の思考」＝歴史的な資料を読みといたり、多角的・多面的に比較して考え、出来事の因果関係を考えること。
- ③「関係の思考」＝出来事の時間的・空間的つながりを考え、時代背景やその時代の価値観をふまえて考えること。

3つに分類した思考は、普通は、相互に関連しあって思考されるものであり、分類を意識せず総合的に考えている。思考の順番はなくどこからでも歴史的な思考が行われるのが通常である。

歴史的思考力の向上を目指した通史的系統学習と主題学習の構造図



(2) 主題学習

ア ねらいと変遷

昭和35年(1960)世界史Bの学習指導要領に導入された主題学習のねらいの一つは「歴史的思考力」育成である。その背景には、当時、大学受験用の羅列的・網羅的な理解が横行していることから、歴史教育の重要なねらいである「歴史的思考力」育成が十分でないことに警鐘を鳴らす必要があったといわれる。現行学習指導要領では、導入部に「世界史への扉」が主題学習として新設され、平成21年(2009)に告示された新学習指導要領では下表のように、「主題学習」を各大項目に設け、段階的・継続的に指導することが求められている。今回の研究では、年間指導計画の中にどのように位置づけるかという問題意識も持って望みたい。

大項目	主題学習
(1) 世界史への扉	- ア 自然環境と人類のかかわり - イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり - ウ 日常生活にみる世界の歴史
(2) 諸地域世界の形成	エ 時間軸からみる諸地域世界
(3) 諸地域世界の交流と再編	エ 空間軸からみる諸地域世界
(4) 諸地域世界の結合と変容	オ 資料からよみとく歴史の世界
(5) 地球世界の到来	オ 資料を活用して探求する地球世界の課題

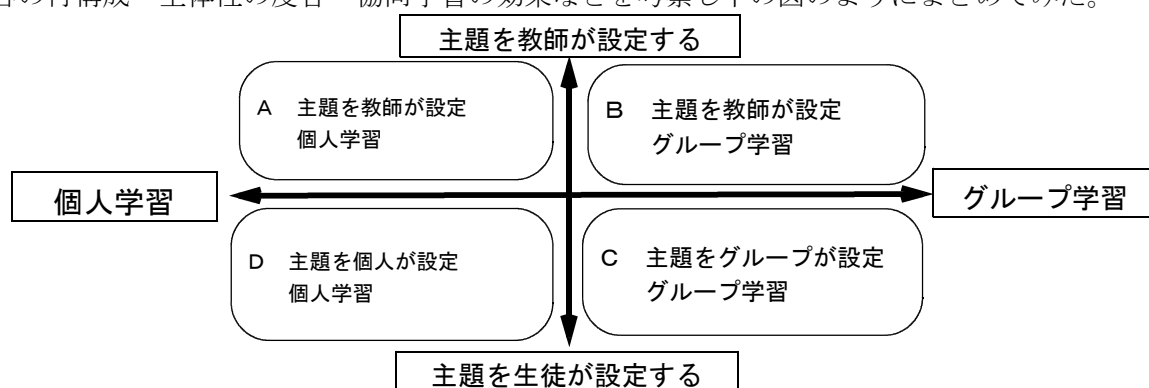
イ 特質と課題

主題学習は、歴史的思考力を培うのに適した主題を設定し、生徒の主体的な学習活動を通しての問題解決的な学習である。また、登場以来、世界史Bにおいては通史的系統学習を中心にしつ

つ、これと有機的に結びついた問題解決的な学習という特質をもったものであった。つまり、主題学習は通史的系統学習との共存をめざして発想されたものである。しかし、通史的系統学習との重複をまねき、学習内容の増加と授業時間数の不足をきたすのではないかと考えられ、いかに学習内容の再構成をはかり主題学習を実施するかが課題ともなっている。今回の研究でも主題学習を行う上で学習内容の再構成を計画的に考え、学習内容の重複を少なくしたい。

ウ 主題学習の四つの学習形態

主題学習の学習形態を、「学習形態の軸」と「主題設定者の軸」で対比し、実施時期・学習内容の再構成・主体性の度合・協同学習の効果などを考察し下の図のようにまとめた。



- A：導入期が適切で、興味・関心を引き出す学習内容のため再構成が容易であると考え。
- B：発展期が適切で、教師が主題を設定するので学習内容の再構成がしやすいと考える。また、グループ学習による協同学習の効果が期待できる。
- C：発展期が適切で、主体性がより期待できるが、生徒が主題を設定するので学習内容の再構成は容易でないと考える。教師による学習内容の再構成の工夫がより重要だと思う。また、Bと同様にグループ学習による協同学習の効果が期待できる。
- D：まとめ期が適切で、世界史学習のまとめとして生徒が自ら主題を設定して、主体的に追究することが出来ると考える。教師による学習内容の再構成が一番高度で一層の工夫が必要である。また、必要な場合は、個別の生徒に対する十分な助言もしなければならない。

(3) 歴史的思考力と歴史学習の基本的技能

新学習指導要領では、「主題学習」において「世界史の学び方」を段階的に習得し「歴史的思考力」を培うようにとしている。「世界史の学び方」を以下の3つの「歴史学習の基本的技能」として、段階的な習得をめざそうとしている。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> a 時間的なつながりや空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能 b 資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能 c 資料を活用し表現する技能 |
|---|

また、「歴史学習の基本的技能」としては、これ以外にも「資料や地図、年表を正しく読むこと」や「図書館やインターネットを活用して情報収集すること」、「他人とコミュニケーションをとり議論をすること」なども考えられる。今回の研究では、新学習指導要領のしめす「歴史学習の基本技能」を中心にその他の技能も含めて、段階的な習得が歴史的思考力の向上に有効であることを検証する。

以上のことから、生徒の「歴史的思考力の向上を目指す主題学習」を行う場合には、歴史的思

考力を3つに分類し、それぞれの思考を中心に行う主題学習と歴史学習の基本的技能の習得を関連させながら、段階的に実施していくことが有効だと考えた。また、それぞれの段階の主題学習にあった学習形態を考慮することも重要である。

5 研究内容

今回は、「主題学習」の段階的・継続的指導をめざす新学習指導要領をふまえ、最初の段階である「時間的・空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能」の形成を意図した学習形態の工夫を行い、「関係の思考」を中心に歴史的思考力が向上するか実践検証していく。

(1) 年間指導計画での位置づけ

	指 導 内 容	学習形態	技能	歴史的思考力
1 学 期	(1) 世界史への扉 (2) 諸地域世界の形成 ア 西アジア・地中海世界の形成 イ 南アジア世界の形成 ウ 東アジア世界・内陸アジア世界の形成			
	主題学習「仏教の広まり」…本項目(7時間)	B	a	関係の思考
	(3) 諸地域世界の交流と再編 ア イスラーム世界の形成と拡大 イ ヨーロッパ世界の形成と変動 ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界			
2 学 期	(4) 諸地域世界の結合と変容 ア アジア諸地域世界の繁栄と成熟 イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ウ 欧米の変革と国民形成			
	主題学習「アメリカ独立宣言と先住民」	B	b	意味の思考
	エ 世界市場の形成とアジア諸国 オ 帝国主義と世界の変容			
3 学 期	(5) 地球世界の到来 ア 二つの世界大戦と大衆社会の出現 イ 米ソ冷戦と第三勢力 ウ 冷戦の終結と地球社会の到来			
	主題学習「地球社会の到来」	D	c	現代からの思考

(2) 対象

本校1学年(A・C・E組 122名) 世界史B(4単位)

教科書「新詳世界史B」帝国書院、副教材「明解世界史図説エスカリエ初訂版」帝国書院

6 授業実践

(1) 主題学習「仏教の広まり」

研究はグループ学習によるものとし、研究成果を資料にまとめ、発表することとした。

ア 主題の設定

「関係の思考」を中心に歴史的思考力の向上をめざす第一段階の「時間的・空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能」の習得に適する主題を考えた。この段階で、生徒が主題を設定すると授業内容の再構成が難しくなると考え、教師が設定する共通の主題とした。

「仏教の広まり」はこれまで学習してきた南アジア・東南アジア・東アジア・内陸アジア世界を網羅し、また、日本の歴史とも密接に関連しており、時間的・空間的つながりに着目して整理し、表現する技能の習得に大変適している主題と考え設定した。

イ 学習内容の再構成

出来るだけ学習内容が重複しないように注意を払い再構成し、限られた授業時間の中で主題学習が行える様にした。まず、南アジア・東南アジア世界で、「仏教の伝播」をこれまでより簡潔な学習にした。次に、東アジア・内陸アジア世界では、「宋までの王朝変遷」を中心に学習し、文化面を簡潔にした。「仏教の広まりや、仏図澄、鳩摩羅什、法顕、玄奘、石窟寺院、遣隋使・遣唐使など」の項目はほとんど扱わないでオいた。この部分は、主題学習で生徒自身が調べて学習していくこととした。

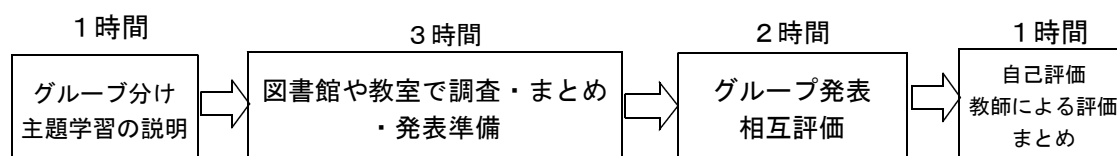
ウ 学習形態

歴史的思考力を3つに分類した主題学習の最初の段階なので、学習内容の再構成をしやすい教師が主題を設定し、また、協同学習の効果が期待できるグループ学習の形態で行うことにした。

エ 評価 以下の観点と評価規準をもとに、相互評価・自己評価・教師による評価を行った。

観点	評価規準
関心・意欲・態度	仏教の広まりに興味を持ち、自ら主体的に追究するとともに、班員と協力し積極的に調査や発表を行うことができたか。
思考・判断	資料を収集し班員と議論をし、仏教の広まりを時間的・空間的つながりに着目して論理的に整理することができたか。
技能・表現	図書館やインターネット等から情報を収集し、仏教の広まりを時間的・空間的つながりに着目してまとめたり、発表することができたか。
知識・理解	仏教の広まりに関する知識や理解を深めることができたか。

(2) 実践の流れ（各クラス合計7時間）



ア グループ分け・主題学習の事前説明（1時間）

好きなもの同士で5～6人のグループをつくらせ、班長と発表順を決めた。特に指定はしなかったが、どのクラスも男女別に分かれた。

次に、今回の主題学習について目的・調べ方・まとめ方・発表の方法・今後の日程について説明した。これまで勉強してきたことをもとに仏教の広まりについて調査を行い、時間的・空間的つながりに着目して整理し・表現していくことを強調した。図書館を使用できるようにしたが、コンピュータ室について、なるべく班員同士のコミュニケーションと議論の場面を多く作りたかったため準備しなかった。そのため、生徒はインターネットでの情報収集をほとんど自宅で行うことになった。発表時間は1班10分程度とし、実物投影機と大画面テレビを使って発表させた。

実物投影機は、操作が簡単で、A4サイズ程度の手稿をつくれば、そのまま拡大して見せられ発表ができたので極めて効果的であった。

イ 図書館や教室で調査・まとめ・発表準備（3時間）

図書館を中心に、各グループが調査に取りかかったが、驚いたことに図書館を初めて利用する生徒もいて、本探しができずに戸惑っていた。このため、司書教諭から本の探し方などをアドバイスしてもらい、大変助かった。ほとんどの班が地図担当、年表担当など分担して順調に調べはじめた。各班をまわり進捗状況を見ると、調査の方向性で困っている班や主題から逸れて調べている班があったので、適宜アドバイスをしていった。



図書館での調査

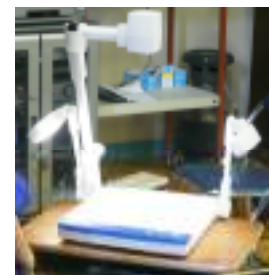
生徒との会話を通じて、普段の講義形式の授業とは違った生徒の様子が多く見受けられ、一人一人の世界史に対する関心度が良くわかった。また、学習済みの仏教についての基本的な事項を班員から教えられ、間違いに気づいた生徒もおり、教えた生徒も自信を持った様子で、グループ学習の効果が確認できた。ほとんどの班が、2時間目に地図や年表、発表原稿のまとめを完成できたため、教室で実物投影機の操作を演示し、生徒に発表イメージをつくらせた。3時間目には、すべての班で地図や年表、発表用原稿を仕上げ、発表の段取りを考えたり原稿読みの練習に取りかかったりする班も出てきた。どの班も自分たちの独自性を出そうと工夫している様子がうかがえた。



地図の作成

ウ グループ発表・相互評価（2時間）

3クラスとも大画面テレビがある多目的室を使用して、1時間に3～4班の発表を行った。



実物投影機

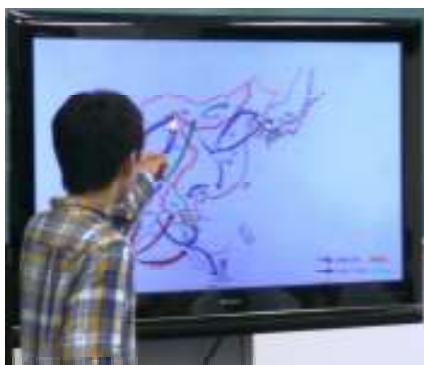
実物投影機と大画面テレビを使っのグループ発表

一班だけせっかく家で地図をまとめたのに忘れてしまい、急造でしのいでいた班があつが、全体的に見ると、各班ともほぼ資料もまとめてあり、予定通り発表を行えた。発表を聞いた生徒は、相互評価用紙に発表の評価を記入するよう促した。

相互評価で高評価を得たC組5班の発表例

他の班とほぼ同様に、仏教のおこりからその広がりまでを年表と地図を使って発表した。特にこの班では、時間的・空間的つながりについて説明を加え、仏典を求めインドに旅した玄奘に焦点を絞り、なぜ玄奘がインドへ向かったかの説明や旅の途中通ったと考えられる土地の写真を入

れたり、険しい山々を立体的に描いた地図を用意したりして、聞いている生徒が疑問に思うような部分にもしっかり答えるような説明が好評を博していた。



C組5班の発表の様子



玄奘の説明で使われた地図

相互評価で評価が高かったC組5班に対するの記入例

<良かったところ>

- ・全体的にわかりやすかった。時間の流れも、空間的な説明もしっかりしていて良かった。
- ・地図がすごく上手でした！指し棒が良かった。
- ・ただ「伝わった」というだけでなく、他教との対立など細部も語られていた。
- ・写真が入っていて良かった。
- ・資料が良く整理されていた。
- ・発表の仕方が本当の授業みたいで良かったです。

相互評価表(発表グループへの評価)

発表グループ 番号: クラス 期 姓名

① 正確にその内容を説明できたか
4 十分満足できる 3 おおむね満足できる 2 やや努力を要する 1 かなり努力を要する

② 図表がわかりやすく、説明が丁寧だったか
4 十分満足できる 3 おおむね満足できる 2 やや努力を要する 1 かなり努力を要する

③ 時間的なつながりに着目して、論理的に整理されたか
4 十分満足できる 3 おおむね満足できる 2 やや努力を要する 1 かなり努力を要する

④ 空間的なつながりに着目して、整理されたか
4 十分満足できる 3 おおむね満足できる 2 やや努力を要する 1 かなり努力を要する

⑤ 総合的な内容が理解しやすい発表であったか
4 十分満足できる 3 おおむね満足できる 2 やや努力を要する 1 かなり努力を要する

良かったところ

心算が速く、よく説明ができていたと思います。

地図をもっと有効活用できるといいと思います。

質問に答えたところ

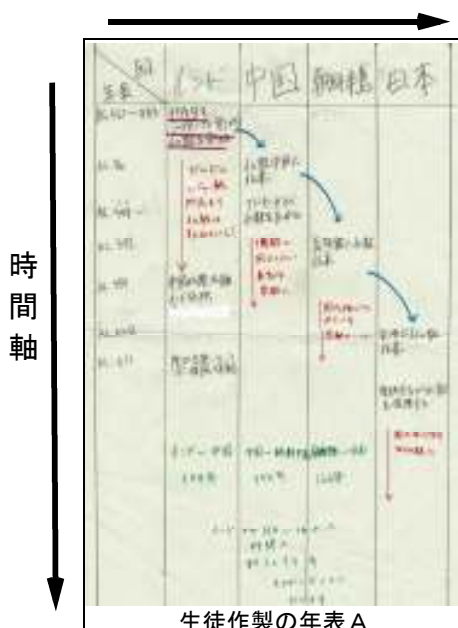
「心算が速く、よく説明ができていた」と思っています。

相互評価用紙の記入例

年表のまとめ方の違い

年表Aのように縦に時間軸と横に空間軸をあらわすものと、年表Bのように時間軸と空間軸が同じ方向に配置されたものがあつた。大半は年表Aの様式で作成され、見る者へのわかり易さについての工夫が見られた。

空間軸



生徒作製の年表A



生徒作製の年表B

* 時間軸・空間軸の矢印は、筆者が記入

地図については、自分が普段の授業でほぼ毎回黒板に地図を描き説明していることもあり、描き慣れた生徒もいて、手書きで上手に色分けなども工夫して良くできていた。懸念していたインターネットからの貼り付けで済ませている班はごく少数であった。

また、下の図のように、仏教の広がりや宗派に注目する視点を加えたり、日本での宗派の地域図を入れることで仏教を身近なものとして考えられるように工夫した班もみられた。



仏教の広がりを手書きで色分した地図の例



仏教の宗派に注目した例



日本の宗派の地域図を作成した例

エ 自己評価・教師による評価・まとめ（１時間）
各班ごとに集まり、他の班からの相互評価用紙を見て、班の中での反省を行いながら自己評価用紙を記入した。生徒は、他の生徒からの評価について、こちらが想像していた以上に熱心に読み、反省点・改善点などをよく話し合っていた。教師による評価は、同時に各班を巡回し良かった部分や改善した方が良かった部分を指摘することで実施した。生徒は真剣に助言を聞き、次回への改善の決意の言葉をあらかず生徒もいた。明らかに間違った説明部分については、時間の終わりに指摘し、まとめとした。



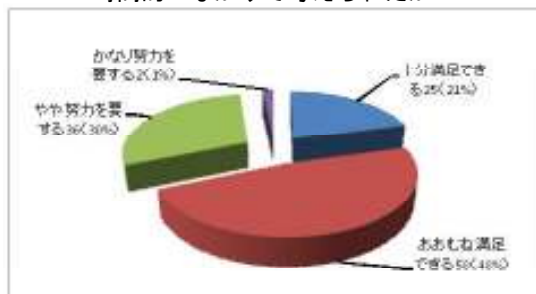
グループでの自己評価の様子



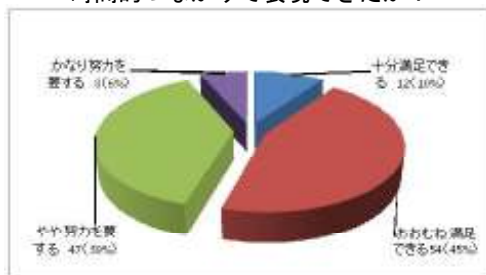
自己評価用紙の記入例

自己評価の結果

時間的つながりで考えられたか？



時間的つながりで表現できたか？



<考えられた>

- ・年表にして他の地域とのつながりを考えられた。
- ・流れを説明するために年表を多くみたら。
- ・年表や資料を見ていく中で、授業で聞いただけではわからないことがわかったから。
- ・たくさんの資料と年表を組み合わせで考えることが出来たから。

<考えられなかった>

- ・調べる前に、紀元前後の時代の流れがあまり理解できなかった。
- ・年表の見方が良くわからない部分があったから。

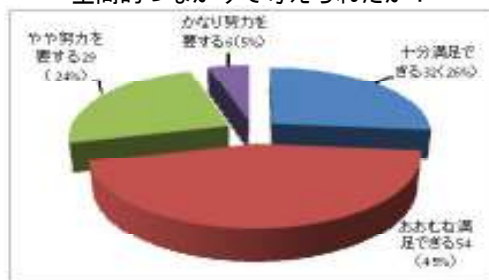
<表現できた>

- ・年表を使いながら発表できたから。
- ・年表がうまくできた。
- ・自分で年表をつくって、どのように繋がっていたのか知ることができた。

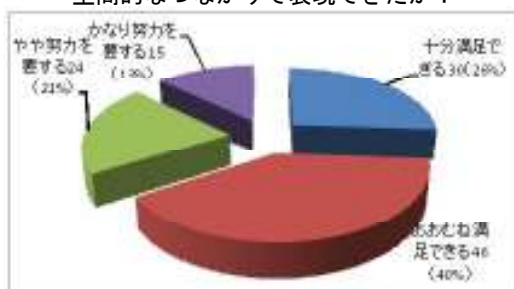
<表現できなかった>

- ・年表を細かく書くべきだった。
- ・年表が見にくかったし、いろいろ省いたから。

空間的つながりで考えられたか？



空間的つながりで表現できたか？



<考えられた>

- ・多数の地図を利用し考えることが出来た。
- ・資料をつくる、また発表の練習をしていくうちに自然と考えることが出来た。
- ・地図を作成していくうちに、仏教がどのような経路をたどってどこに伝わったかがわかった。
- ・調べていくうちに、部派仏教や中国・チベット・日本など大乘仏教の宗派の移りかわりがわかったから。
- ・地図と建物、出来事を重ね合わせて考えることが出来た。
- ・図書館の本には深いところまで書いてあったので面白かった。
- ・いろいろな班の発表を見て、見やすい地図から理解できた。

<考えられなかった>

- ・地図は使ったけど、おおまかにしかわからなかった。
- ・時代と時代のつながりが良くわからないから。
- ・地理的に考えることが出来なかった。

<表現できた>

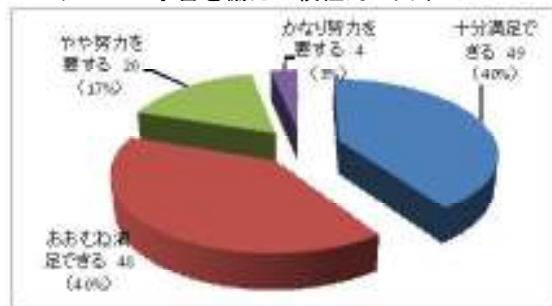
- ・色分けや矢印等を使って自分なりに地図上にまとめることができた。
- ・地図を2種類詳しくかけたから。
- ・見やすい地図を作れていたから。
- ・表をつかって説明することができたが、もっと見やすくしたかった。
- ・地図の説明がわかりやすくてできたから。

<表現できなかった>

- ・時間が足りなくて、簡単にしかできなかった。
- ・要点をまとめられなかった。

「時間的つながりで考えられた＝69%」,「空間的つながりで考えられた＝71%」とともに7割近くの生徒がおおむね満足を示している。ところが,「時間的つながりで表現できたか＝55%」,「空間的つながりで表現できたか＝66%」といずれも「表現」が下がっている。まとめる時間が限られていた影響も考えられるが,特に,年表を思うように見やすくまとめることが上手くできなかったようで,表現方法の訓練が必要である。「理解しやすく発表できたか」については,努力を要すると答えた者が68%もあり,生徒も発表の難しさを実感していた。また,調査中に生徒から資料集の年表の見方が分からないという質問があり,日頃から地図とともに年表を読み取る力も付ける必要性を実感した。

グループ学習を協力し積極的に出来たか？



<出来た>

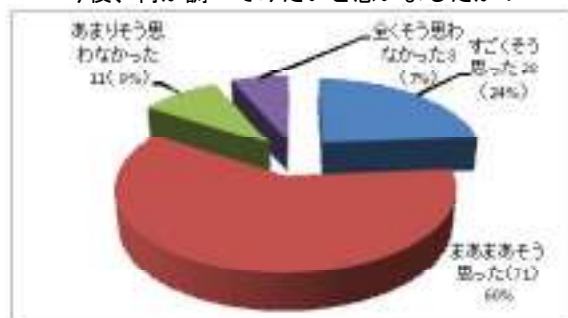
- ・自分の役割をやりながらグループで積極的に意見交換を交わせたから。
- ・役割を分担できたから。
- ・自分から積極的に意見を言ったり,資料を集めたから。
- ・分からない所は協力して調べあげることが出来た。
- ・自分の意見を言いつつ,相手の意見も聞いて時間を有効に使って作業を進められたから。

<出来なかった>

- ・他人にまかせきりのところがあったから。
- ・自分の担当しか調べられなかったから。

グループ学習については,80%の生徒がおおむね満足を示しており,コミュニケーションや議論ができ,互いに教えあう姿が多くみられた。協力して取り組むことで難しい問題にも対応できたグループ学習の効果がみられた。なお,分担後の話し合いの時間がとれずうまくいかなかったという反省や,個人で調べたいという感想も少数ながらあった。

今後、何か調べてみたいと思いましたか？



調べ学習については,実施前と実施後ともにほとんど変わらず80%以上の生徒が高い意欲を示している。やはり,生徒は考えるということに楽しさを感じるのだろう。普段の授業の中で,また,今回のような主題学習の中で,なぜと考える場を常に作り出すようにしなければならない。一方で,調べ学習に苦手意識を持つ生徒の存在もわかり,今後の指導方法を研究する必要性を感じた。

7 総括と今後の課題

(1) 主題の設定について

仏教については中学校での学習土台があり,また,日本との関係も深いことから生徒がすんなりと身近に感じて調査に入れたのではないと思う。生徒は,資料を探して,仏教の広まりを時間的なつながりや空間的なつながりから理解し考えることはある程度は出来たが,時代背景やその時代の価値観を考えるとところまで深めることがやや不十分であった。仏教について授業で学習してから相当時間が経ってしまっていて,基本的事項を忘れてしまった生徒も多かった。教師からの事前講義で確認や解説をもう少し行っておけば,より考えを深める事が出来ただろうと反省している。ただ,事前アンケートで「世界史の人物名を覚えて何の役に立つのかわからない」と回答していた生徒が,自己評価で「ふだん仏教は身近にあるが,詳しい伝来などは調べる機会が無かったので良い勉強になり,他にも何か自分で調べてみようかと思った」と述べており,仏教を歴史的なつながりで考え,さらに探究しようとする姿勢が生まれたことがわかる。同様に普

段の授業では世界史にほとんど関心を示さない生徒が関心を持つようになり、主体的学習への有効性を確認できた。

（２）学習内容の再構成

重複を避けるため授業で取り扱わなかった「仏教の広まり、仏図澄、鳩摩羅什、法顕、玄奘、石窟寺院、遣隋使・遣唐使」などの項目は、各クラスとも、いずれかの班が調査し発表していた。学習内容の重複は避けられたが、調べ方にばらつきがあり、まとめの際に教師が適切に補足する必要がある。また、感想のなかには、発表を何度も繰り返し聞くことで知識・理解の定着がすすんだというものも多くみられ、講義形式の授業とのバランスを考えて主題学習を行うことが知識・理解の定着を有効に行う上で不可欠であることが明らかになった。

（３）学習形態

今回は、仏教という共通主題を提示したが、各班が色々な視点から調べることができるので、発表の中で特徴を出すこともでき、かえって班ごとの発表内容の比較検討が出来た。感想にも、同じ主題だがそれぞれが違って面白かったというものが複数あった。また、何より教えあうことができるグループ学習は、最初の段階の主題学習で、歴史学習の技能を習得しようとする生徒に効果がある。

（４）今後の課題

ア 時間の問題

今回は主題学習に7時間を充当したが、学期に一回行う場合約30時間ほどと考えると、4単位の世界史で年間でそれだけの時間を実際に充当できるのかという問題がある。学習内容の再構成や実施の方法に工夫が必要だが、今回行った生徒の主体的な活動の様子や感想を読むと、手応えが十分にあり、何とかしてこのような授業を実施しなければならない。

イ 評価の問題

今回は、相互評価・自己評価・教師による評価と、学習意欲に働きかけるような評価は行えた。これをどのような形で、一人一人の通常の評価とつなげるかが今後の課題である。

（５）まとめ

「主題学習」の段階的・継続的指導を行い、歴史的思考力が向上することをめざし、最初の段階の「時間的・空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能」の形成を意図したグループ学習を実施した。当初こそ、講義形式の授業に慣れていた生徒にも教師にも不安があったが、生徒の積極的な活動をみて主題学習への手応えを感じる事ができた。また、その後通常の授業でも発問や討論など生徒との対話が多くなる等、相乗効果も感じており、指導改善に大きく役立っている。これからも主題学習の授業実践に積極的に取り組みたい。

最後に、2年間ご指導をいただいた指導主事の先生方や教科指導員の先生方、またこの実践に協力いただいた本校の先生方、生徒にこの場をお借りして感謝とお礼を申し上げます。

参考文献 原田智仁編著『高等学校新学習指導要領の展開 地理歴史科編』 明治図書

鳥山孟郎『授業が変わる世界史教育法』 青木書店

豊島宏『歴史教育論攷—歴史教育における「主題学習」について—』 松山大学

宮崎正勝『中等社会科教育における主題学習とエクセンプラリッシュ方式』 北海道教育大学